２．戦時下の暮らし展アンケート結果

資料　２

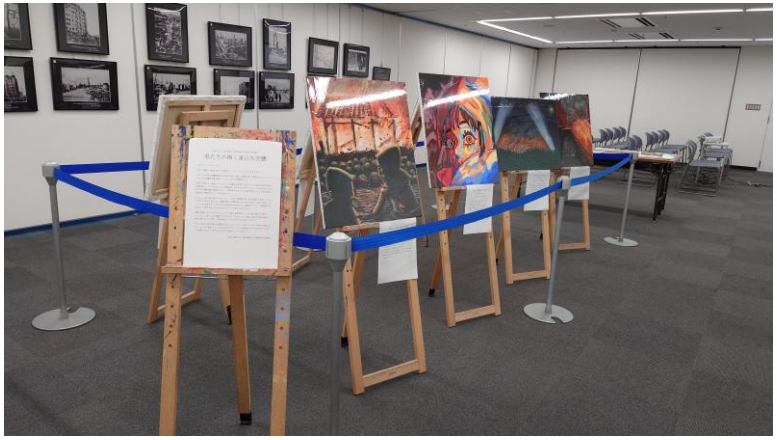
１．概要

【日　時】
令和８年８月13日（木）～8月18日（火）

【場　所】
富山県民会館２階ギャラリーA,B

【来場者】1,119名

【内　容】
〇県民から寄贈いただいた戦時中の実物資料や写真、市内の神社から借り受けた焼夷弾などを展示し、戦時下の暮らしや富山大空襲の実相を伝えた。
〇富山大空襲の語り部の講演会のほか、体験者の証言をもとに製作した高校生の絵画展示、ギャラリートークを実施。



【特別展示】
「私たちが描く富山大空襲」
（県内の高校生が空襲経験者のお話をもとに製作）



【語り部講演会】
「富山大空襲を語り継ぐ」
（8/16（日）14時～15時）

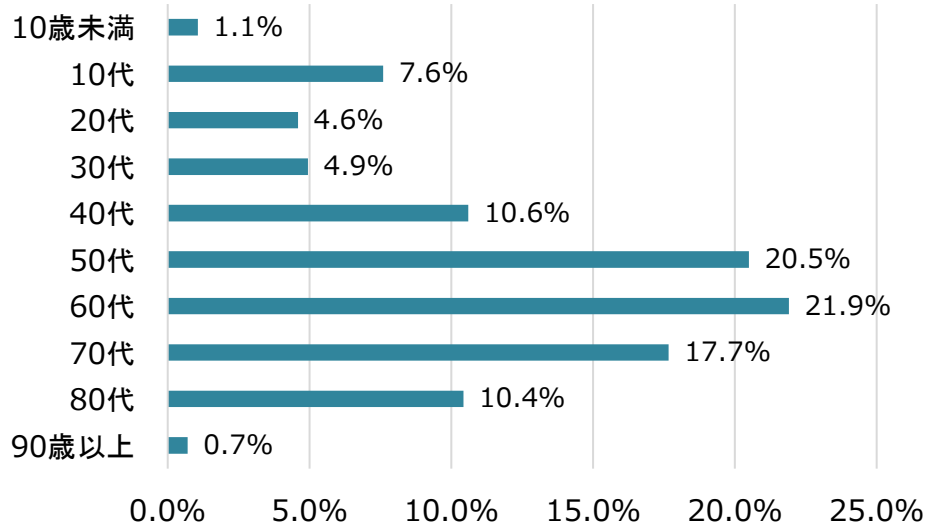
２．戦時下の暮らし展アンケート結果

２．アンケート結果

①アンケート概要
- 実施期間：令和８年８月13日（木）～8月18日（火）
- 実施方法：会場内でアンケート用紙を記入またはWebフォームにより回答
- 回答数　：571件

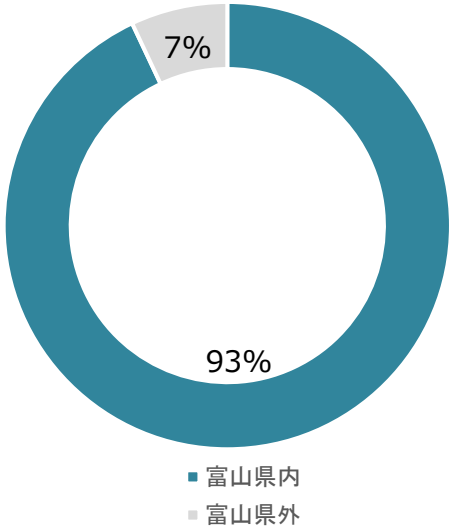
②アンケート回答者の属性

【年齢】



回答者の約５割が50代以下

【居住地】

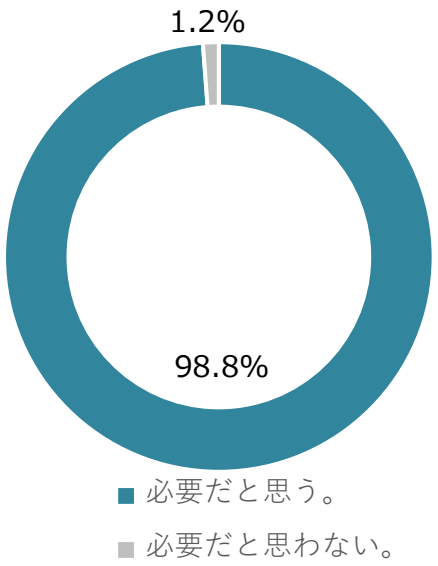


回答者の約9割が富山県内在住

２．戦時下の暮らし展アンケート結果

２．アンケート結果

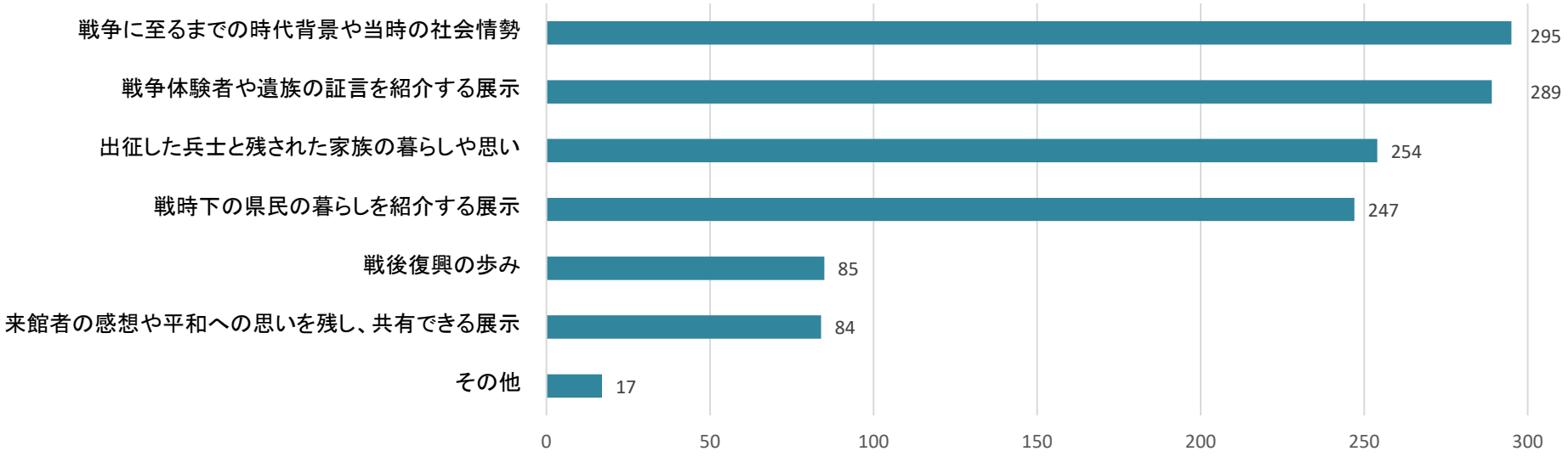
③富山大空襲をはじめとする戦争の記憶と平和の尊さを次世代に継承するうえで、戦災資料の保存や展示を行う機会は必要だと思いますか。（１つ選択）



戦災資料の保存や展示を行う機会については、約99%が必要と回答

２．アンケート結果

④戦災資料の展示を行う場合、富山大空襲に関する展示に加え、どのような展示内容が望ましいと思いますか。（３つまで選択）

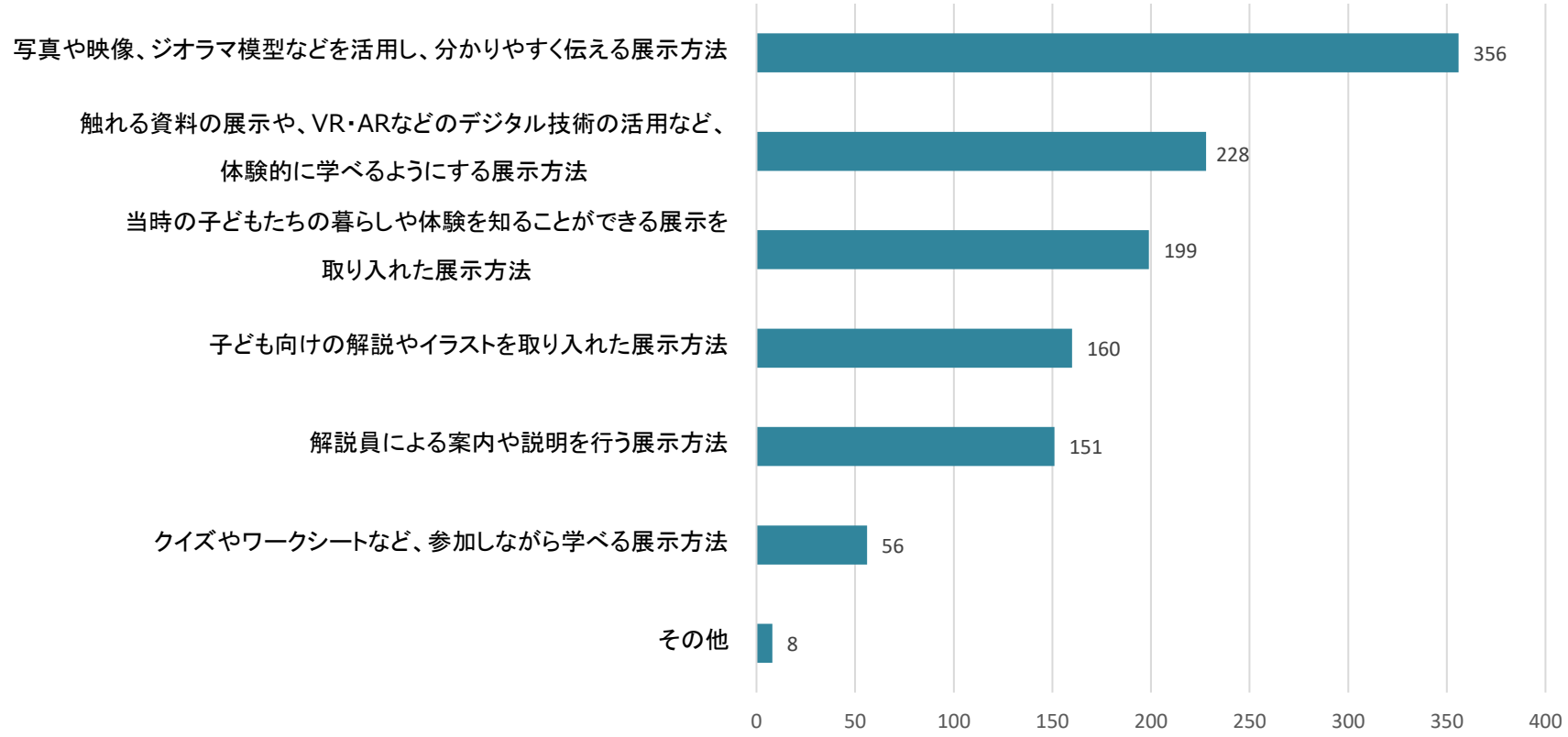


戦争に至る背景や当事者の体験、当時の人々の生活など戦災の実相を多角的に理解できる展示が求められている

2．戦時下の暮らし展アンケート結果

2．アンケート結果

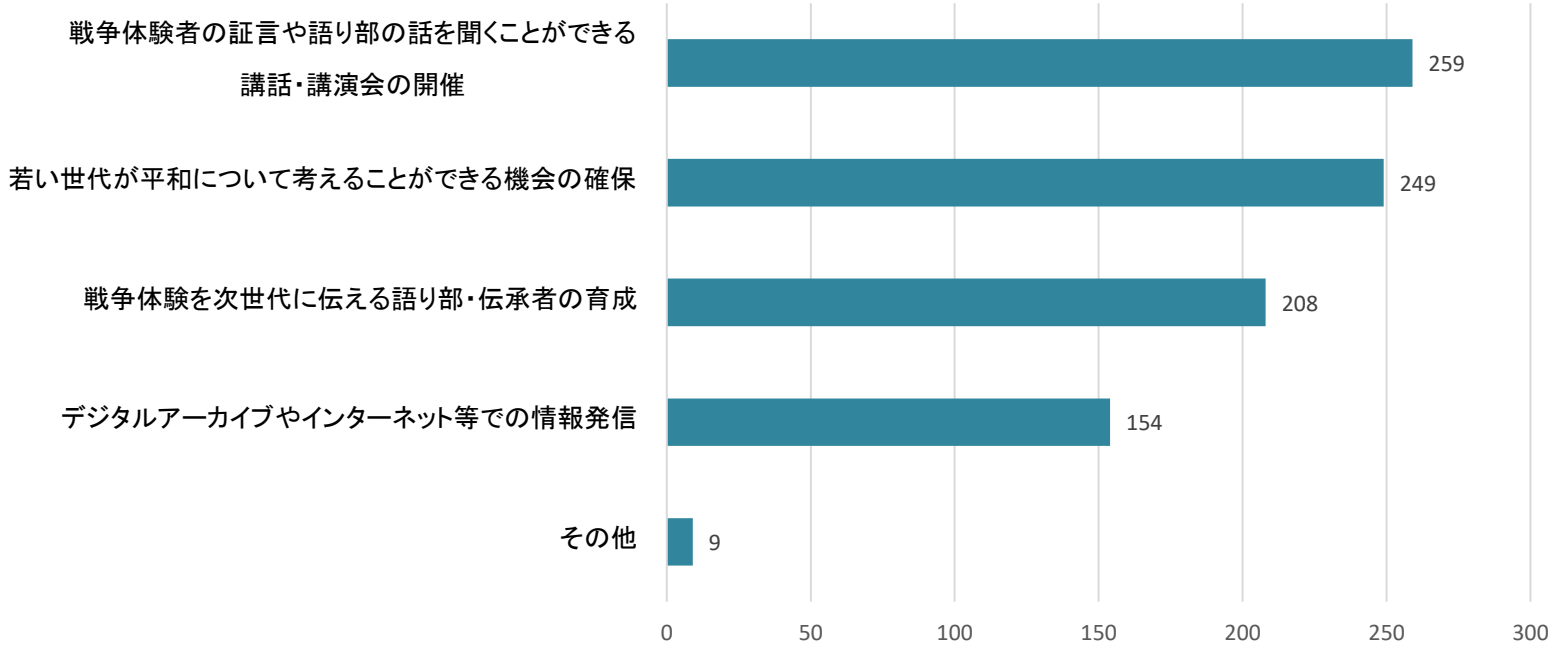
⑤戦災資料の展示を行う場合、特にどのような展示方法があるとよいと思いますか。（3つまで選択）



視覚的にわかりやすい展示や、体験型の展示への工夫が求められている

２．アンケート結果

⑥戦災資料の保存や展示のほか、戦争の記憶と平和の尊さを次世代に継承するうえで、どのような取組が必要だと思いますか。（２つまで選択）



体験者などから直接話を聞く機会や若い世代の考える機会の確保、伝える人の育成が必要との声が多い